

に協力したいと考えている。また、廃食用油の回収には、市民の協力等が必要なため、事業の動向を見ながら研究したい。

鈴田地区ハイキングコースの設定について

廣瀬 政和 議員

Q 今、手つかずの自然が残り、家族で出かけることができる身近な場所が、憩いの場として注目されている。鈴田地区には、日岳から惣原（そうばる）運動場、仏舍利塔を経由して、どん牛までの隠れた景勝地がある。鈴田出張所を起点として、この自然が豊かで素晴らしい景観の4地点を結び、市民のハイキングコースにすることはできないか。

A 現在、着地型観光を推進しており、その中でトレッキングやウォーキングにテーマを絞った観光マップを作成することになっている。提案の鈴田出張所を起点とした、どん牛までのハイキングコースの設定についても、視野に入れて、PRをしていきたい。

大村湾対策

大崎 敏明 議員

Q 県から大村湾沿岸の浅場造り事業候補地の募集が、沿岸の5市5町になされている。3月議会的一般質問において、森園海岸が適地であり、ぜひ大村市が一番に名乗りを上げるべきだと提案した。この事業は、海岸に再生砂を利用した浅場を造成することで、生物の生息場をつくり、大村湾を浄化することが目的である。市の対応と進捗状況を尋ねる。

A 現在、庁内関係課による調整会議を開催し、選定場所や関係団体の協力など募集要件をクリアできるかも含めて、精査している。今後、早急に候補地を決定の上応募し、実証試験候補地として選定されるよう、市長自ら、県に強く要望していきたい。



福祉・医療・保健

子育て支援の充実について

水上 享 議員

Q 現在、就学前の子どもの医療費は一部助成となっているが、拡充する考えはないのか。また、

政府は、5年を目標に学童保育の定員枠の30万人の拡充を目指すところがあるが、施策はどのように進めるのか。また、学習ボランティア事業を存続すべきだ。また、私立の小中一貫校を誘致する考えはないのか。

A 医療費無償化の拡充については、子育て世代の経済的負担軽減のため小学生までを目標して頑張りたいと思っている。また、学童保育については、開所時間延長のための予算を今定例会に上程している。また、学習ボランティア事業については、県の新たな補助事業である学力向上補助員制度を活用して10名を雇用している。また、私立の小中一貫校の誘致については、1つの研究課題になると思う。

誕生準備金創設について

川添 勝征 議員

Q 政府は50年後も人口1億人を維持する目標を定め、少子化対策に本気で取り組む姿勢が示された。大村市は「子育てするなら大村で」というスローガンを掲げ、保育料第2子無料化などにより確実に成果を上げてきた。「子どもは授かりもの。大切にします。」とのメッセージを込めて、妊婦の大切

な時期に支給する「誕生準備金」の創設を提案する。

A 子育て段階はもとより、出産があると考えているため、現在、出産祝金を考えている。市全体の財政計画の中で、少子化対策は最優先課題として取り組む必要があると思っており、誕生準備金については、必要性を内部でも十分調査、研究し、実施する方向で考えていく必要があると思う。

交通弱者に根ざした公共交通網の整備を

村崎 浩史 議員

Q 市内バス路線を見直してから3年目となったが、どのように総括しているのか。通院や買い物が増える高齢者が増加している。通院や買い物に特化したコミュニティバスを曜日別に運行地域を変えれば、低コスト運営も可能である。このような県営バスと異なる交通弱者に根ざしたバス路線の研究、検討はできないか。

A 市内バス路線の見直しの総括については、重複した運行箇所の見直しなどにより、効率的な運行と利用者の利便性の向上につながったと考えている。また、交通弱者のためのコミュニティバスについては、ニーズ調査等を実施